

### 3. 周辺地域を含めた整備のあり方に関する有識者ヒアリング

#### (1) 有識者ヒアリングの概要（資料等）

##### 1) 有識者ヒアリングの目的

キャンプ瑞慶覧の西普天間住宅地区跡地は、平成 27 年 3 月に返還され、同年 7 月に宜野湾市が跡地利用計画を策定した。西普天間住宅地区跡地は国際医療拠点の形成が検討されており、今後の沖縄振興に資するものと期待されている。

このことから、西普天間住宅地区跡地及び周辺地域の整備のあり方に関する検討を進めるうえで、西海岸地域開発整備有識者懇談会委員等へ西海岸地域等との機能連携・自然環境・生活環境・良好な景観形成などの観点についてヒアリングを実施した。

##### 2) ヒアリング先

	名前	所属・役職	日付	備考
1	池田 孝之	琉球大学名誉教授	平成 29 年 3 月 9 日	・西海岸地域開発整備有識者懇談会座長 ・キャンプ瑞慶覧（西普天間住宅地区）跡地利用計画策定委員
2	前里 悦子	建築士会宜野湾支部長	平成 29 年 3 月 15 日	・キャンプ瑞慶覧（西普天間住宅地区）跡地利用計画策定委員
3	高嶺 晃	恩納村プロジェクトマネージャー	平成 29 年 3 月 15 日	・西海岸地域開発整備有識者懇談会委員
4	池田 榮史	琉球大学教授	平成 29 年 3 月 17 日	・キャンプ瑞慶覧（西普天間住宅地区）跡地利用計画策定委員
5	小野 尋子	琉球大学准教授	平成 29 年 3 月 17 日	・沖縄県環境影響評価審査会委員

キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地及び周辺地域の整備のあり方に関するヒアリング資料



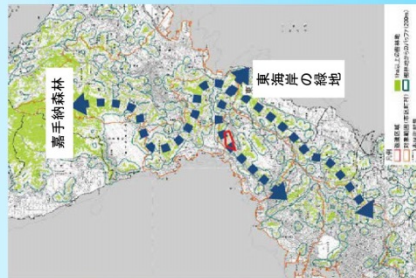
キャンプ瑞慶寛西普天間住宅地区跡地及び周辺地域の整備のあり方に関するヒアリング資料

■ 交通通信体系の整備

- ◆ 那覇空港とのアクセス及び広域交通ネットワークの連携の強化
  - ▶ 地区内幹線道路の整備
  - ▶ 琉球大学医学部・同附属病院等の立地に伴う来街者増への対応
  - ▶ 国道58号へのアクセス道路の確保
  - ▶ 当面通行できないインダストリアル・コリドー内を通過する国道58号へのアクセスを補完するルートの確保
  - ▶ 周辺道路の改善
  - ▶ 県道宜野湾北中城線の国道58号、国道330号との交差点処理、普天間飛行場につながる都市計画道路の整備計画の検討等、周辺道路の改善
  - ▶ バスの利便性強化と鉄軌道導入時への配慮
  - ▶ 琉球大学附属病院等への敷地内バス停車場設置、将来的なバスターミナル（交通結節拠点）と連携した広域的な基幹バスシステム、鉄軌道駅整備の可能性を見据えたフィーダー交通（循環バス等）等導入への取組み
  - ▶ 中南部都市圏の広域的な幹線道路（中部縦貫道路）との整合
  - ▶ 国際医療拠点の形成に当たっては、緊急車両等の円滑な通行確保の観点から、中部縦貫道路のルートと合わせた本地区周辺のネットワーク強化の検討
- ◆ 高品質の通信を可能とする情報通信基盤の導入
  - ▶ 高次医療機能を支えるほか、ICTを活用した環境配慮型都市（スマートシティ）の形成、防災への対応等に向けた、高次情報通信インフラの導入
  - ▶ 上記インフラを敷設する共同溝やCCBoxなど公共施設整備計画の検討

■ 自然環境の保全・回復

- ▶ 広域的な緑地構造を形成する地区内の緑地は極力保全し、広域的な水と緑のネットワークを形成
- ▶ 湧水の見られる地区西側斜面緑地、自然度の高い緑地が残されている阿仁屋の谷は公共の公園・緑地として保全
- ▶ 大規模街区内の民有地は、現況地形を活かすとともに積極的に緑化
- ▶ 緑地の再生・水系の保全等、生態系全体を通じた保全
- ▶ 自然環境の持続的な保全・活用策の確立

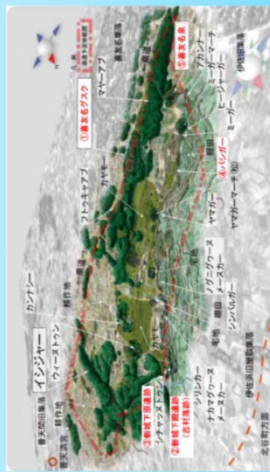


■ 生活環境の整備

- ◆ 都市と自然の共生による豊かな生活環境の創造
  - ▶ 生活道路
  - ▶ 住民と来街者の利用区分を徹底し、周辺地区を含む生活道路から通過交通を排除
  - ▶ 来街者に対するサイネージなどを適宜配置
  - ▶ 地区を周遊する歩行者ネットワークを築き、散策の際の休憩の場、オーシャンビューを楽しむ眺望の場といった多目的なスポットを配置し、住民が日常的に利用できる歩行者空間を整備
  - ▶ 公園・緑地
  - ▶ 地域の固有資源である文化財や景観、自然環境の保全に配慮した、住民に親しまれる身近な施設としての整備
  - ▶ 住民同士のコミュニティを醸成する場としての活用
  - ▶ 配慮した公園整備
  - ▶ 墓地
  - ▶ 墓地基本計画を踏まえ、地権者の意向を把握しながら配置
  - ▶ 個人墓地禁止区域の設定に伴う代替地の確保
- ◆ ユニバーサルデザインの導入による都市空間の形成
  - ▶ 県内外や国内外からの様々な医療サービスを求める来街者を想定し、バリアフリーに対応した誰もが利用しやすい公共交通機関や公共施設、住宅・建築物の整備の展開
  - ▶ 多言語化に対応した案内表示やICT技術を活用した多言語化システムの導入による情報提供など、ユニバーサルデザインによる都市空間の形成

■ 良好な景観の形成

- ▶ 緩やかな地形を活かした景観形成並びに俯瞰景に配慮した眺望景観の保全
- ▶ 公園内には、かつて農村集落景観を構成していた斜面林、湧泉、水田耕作地跡、拝所等を一体的に保全し、歴史的な景観を継承
- ▶ 冲縄らしい都市景観づくりを目指し、工作物や法面等を含めた景観誘導方策の導入



■ 国際医療拠点の形成

- ▶ 国際医療拠点の核となる琉球大学医学部及び附属病院等による高次医療機能、教育・人材育成機能の導入
- ▶ 高度医療・研究機能の拡充
- ▶ 感染症研究拠点の形成
- ▶ 再生医療研究拠点の形成
- ▶ ゲノム医療研究拠点の形成
- ▶ 国際医療拠点形成に向けた先端研究事業
- ▶ 沖縄バイオバンク（医療研究基盤）の構築
- ▶ 地域医療水準の向上
- ▶ 医学教育・臨床研修の強化・充実
- ▶ 高度救命救急センター設置
- ▶ 災害拠点病院の指定
- ▶ 国際研究交流と医療人材育成
- ▶ ニーズに柔軟に対応できる教育システム
- ▶ 国際的に通用する教育システム
- ▶ 臨床教育・研修体制の構築
- ▶ 専門医育成の中核拠点の構築
- ▶ 大学院を中心とした生涯教育システム
- ▶ 国内外大学等との連携体制強化
- ▶ 学生・教員へのサポートシステム
- ▶ 良質な医療環境、教育・人材育成環境の提供等
- ▶ 良質な医療環境の提供
- ▶ 良質な教育・人材育成環境の提供

■ 周辺地域との連携

- ▶ 産業振興
- ▶ 駐留軍返還予定地との連携、役割分担による、中南部地域全体での産業振興・機能展開
- ▶ 普天間飛行場跡地と連携した機能導入、アクセス性の強化
- ▶ 広域幹線道路、鉄軌道等、広域交通インフラ整備の推進
- ▶ 観光振興
- ▶ 西海岸地域と連携した医療ツーリズム等、多様な観光ニーズに対応する仕組みの構築、行き来しやすい環境整備
- ▶ 「普天間宮門前」交流「舞台」の整備

■ その他取組事項

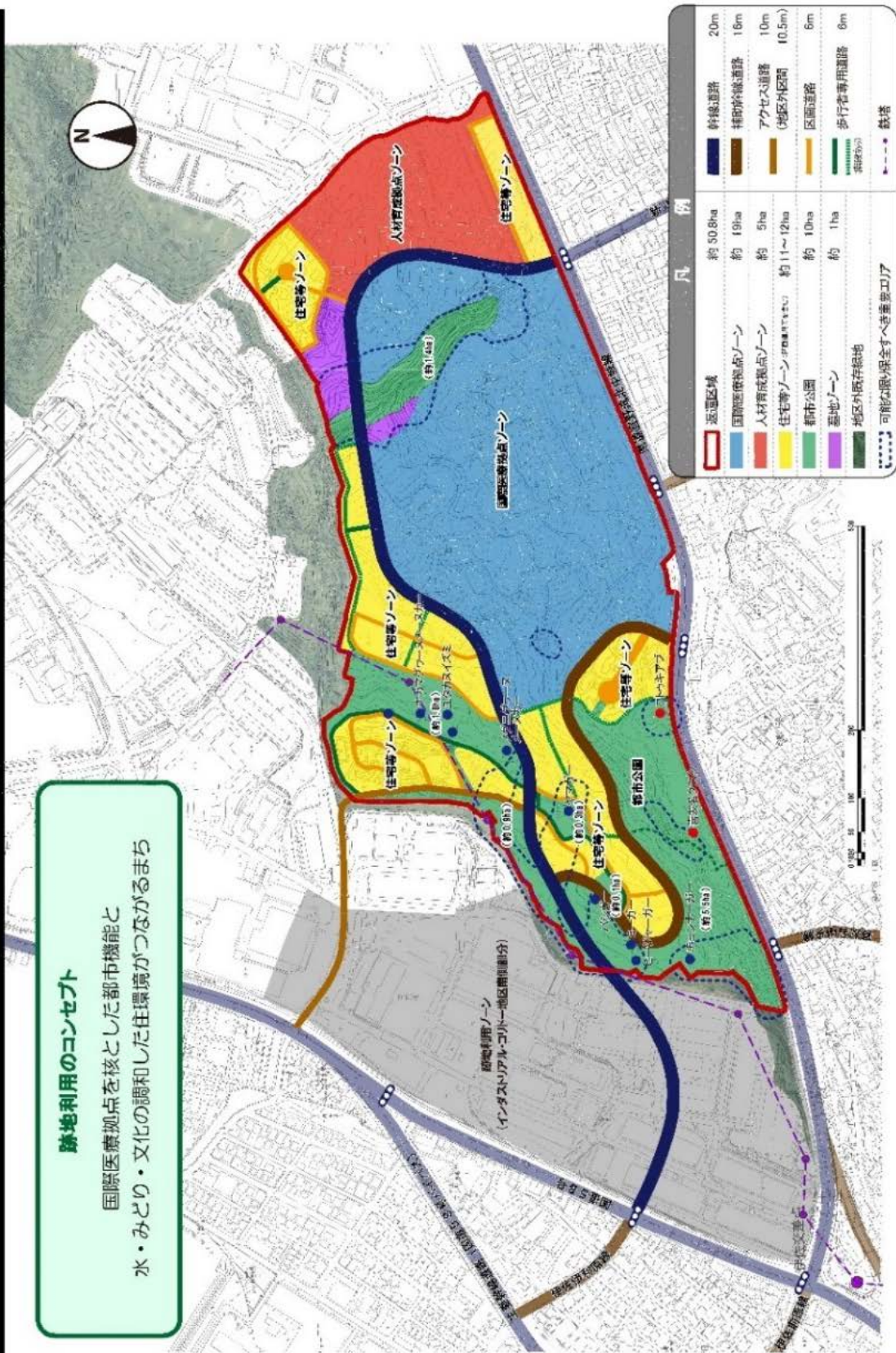
- ◆ スマートシティの形成
  - ▶ 蒸暑地域の特性を活かした環境負荷の軽減
  - ▶ 地域エネルギーマネジメントシステムの導入
- ◆ 広域防災機能の確保
  - ▶ 将来的な広域防災拠点形成を見据えた、避難路や耐震性の高い建物整備
  - ▶ 災害情報提供システムや避難誘導標識の整備、防災教育の徹底

キャンプ瑞慶覧西普天間住宅地区跡地及び周辺地域の整備のあり方に関するヒアリング資料

キャンプ瑞慶覧（西普天間住宅地区）跡地利用計画

跡地利用のコンセプト

国際医療拠点を核とした都市機能と  
水・みどり・文化の調和した住環境が広がるまち



## (2) 意見の概要

今後、西普天間住宅地区の整備を行っていく上で、有識者から指摘のあった留意事項等は以下の通りである。

### 【交通通信体系の整備】

- ① 交通結節点、起終点としての交通機能確保、病院機能は本島全域をカバーしているので、交通も全島とつなぐ機能が必要
- ② 高齢化社会におけるバス交通の活用、循環バス等の公共交通機関の導入（社会実験の導入も有効）
- ③ 駐車場の計画的な確保
- ④ 国際医療拠点ゾーン内の地区内道路の位置づけ・役割

### 【生活環境の整備】

- ① 良好なまちづくりのための将来土地利用をより明確化する必要がある
- ② 住宅地は富裕層向けとしての可能性がある
- ③ 跡地利用における新たなコミュニティ形成で、字の機能が継続されるように配慮
- ④ 基地跡地だけではすべての都市機能を確保できないため、周辺地域との連携が今後の課題

### 【周辺地域との連携】

- ① 国際医療拠点の形成のためには、周辺に学会等が開催できる会議場が必要で、研究者のための中長期滞在に対応した宿泊施設も必要
- ② 基地跡地利用と合わせて既存市街地をどう再生させるか
- ③ 県道南側の既成市街地の役割として、地域商業サービスの担い手、国際色豊かな地域性の特徴の活用があげられる

### 【自然環境の保全及び回復】

- ① 文化財の活用は、土地の記憶・場所の意味性の継承が重要で、学習の場として活用
- ② 湧水はできるだけ保全、周辺市街地からの汚水の流れ込み対策が必要
- ③ イシジャーの観光活用

**【良好な景観の形成】**

- ① 景観コントロールのためにも将来土地利用を明確化する必要がある
- ② 良好な景観形成のための視点場のチェック（広い視点、狭い視点など）
- ③ 地区内は無電柱化が望ましい
- ④ まちづくりにおいて、セットバック部分の規制誘導が課題
- ⑤ 琉大建物は、県道側からの眺望を阻害しないように、また、国道 58 号からはシンボリックなものになるように配慮
- ⑥ 土地の記憶として、米軍基地だった頃の通りのサイン等の活用も有効

**【広域防災機能の確保】**

- ① 津波の際の西海岸地域から高台への避難路確保
- ② 災害時の拠点病院としての地下水利用が課題（下流側の地下水利用への配慮）

#### 4. 今後の検討課題

これまでの検討を踏まえ、総合整備計画の策定に通じた今後の課題を以下に整理する。

項目	現状と課題
1. 地域の総合整備に関する基本的方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国の取組み方針が明らかになった時点で、その内容の反映・整合が必要である。</li> <li>・総合整備計画の策定にあたっては、現在宜野湾市で見直されているキャンプ瑞慶覽（西普天間住宅地区）跡地利用計画と整合をとる必要がある。</li> </ul>
2. 交通通信体系の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本地区が沖縄本島の中南部と北部の結節点であり、さらに本島の東西を連絡する県道に接道していることから、公共交通のあり方についての検討が必要となる。</li> </ul>
3. 生活環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地区計画による付加価値のある良好な住宅地の誘導が必要である。</li> <li>・跡地利用と連携した既成市街地の活性化に向けた検討が必要である。</li> </ul>
4-1. 国際医療拠点の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内閣府による「西普天間住宅地区における国際医療拠点の形成に関する協議会」での検討に応じ、その内容の反映・整合が必要である。</li> <li>・これから基本設計が実施される琉球大学医学部及び同附属病院が、国際医療拠点を担う施設を目指すにあたっては県、市、琉球大学の連携した検討が必要である。</li> <li>・重粒子線治療施設の導入、県立普天間高校の移設は方向性が明らかとなった際にはその内容を反映した整理が必要である。</li> </ul>
4-2. 周辺地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先行して整備が予定される本地区は、現在検討が進められている普天間飛行場跡地利用や都市型オーシャンフロント・リゾートの形成を図る西海岸地域等との、広域的な機能連携を整理する必要がある。</li> </ul>
5. 良好な景観の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際医療拠点の形成を図る本地区において、それに相応しい質の高い景観の形成に向けた整備方針の策定が必要である。</li> </ul>
6-1. 地域の総合整備に関し必要と認める事項（スマートシティに関する取組み）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本地区におけるエネルギー計画を検討する際には、琉球大学と連携した取り組みが必要となる。</li> </ul>
6-2. 広域防災の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>・湧水の保全を踏まえた災害時における水の確保が必要となる。</li> </ul>